

## 削減効果がマイナスとなる場合について

本計画における 2030 年度における削減見込量は、今後（直近データ以降）見込まれる削減量であり、国の「地球温暖化対策計画におけるにおける対策の削減量の根拠」の資料を用いて、基準年度 2013 年度から目標年度 2030 年度までの削減見込量より、2013 年度から 2018 年度までに既に削減している量を控除して求めます。

2030 年度における電気の温室効果ガス排出量の削減見込量を算定する際に、2030 年度における低減後の電気の二酸化炭素排出係数  $0.250\text{kg-CO}_2/\text{kWh}$  を利用しているため、削減効果がマイナスとなる場合があります。

例えば、電力使用量を 2013 年度と比較して 2018 年度時点で  $100\text{kWh}$  削減、2013 年度と比較して 2030 年度時点で  $150\text{kWh}$  削減、電力排出係数が 2018 年度時点で  $0.468\text{kg-CO}_2/\text{kWh}$ 、2030 年度時点で  $0.250\text{kg-CO}_2/\text{kWh}$  であったとします。

2018 年度時点における温室効果ガス排出量の削減量は、2018 年度に削減した電力使用量  $100\text{kWh}$  に、電力排出係数の  $0.468\text{kg-CO}_2/\text{kWh}$  をかけることで、 $46.8\text{kg-CO}_2$  削減していると算定できます。

次に、2030 年度時点における温室効果ガス排出量の削減量は、2013 年度と比較して 2030 年度までに削減した電力使用量  $150\text{kWh}$  に、電力排出係数の  $0.250\text{kg-CO}_2/\text{kWh}$  をかけることで、 $37.5\text{kg-CO}_2$  削減していると算定できます。

この場合、2013 年度と比較して電力削減量は 2018 年度までの  $100\text{kWh}$  から 2030 年度までには  $150\text{kWh}$  になっているため、2018 年度以降さらに、 $50\text{kWh}$  削減していますが、温室効果ガスの削減量は 2018 年度までについての  $46.8\text{kg-CO}_2$  から 2030 年度までについては  $37.5\text{kg-CO}_2$  となっているため、2018 年度以降の削減量は  $-9.3\text{kg-CO}_2$  となります。

表 電力削減量と二酸化炭素排出係数との関係

項目	2013 年度 ①	2013～ 2018 年度 ②	2013～ 2030 年度 ③	2018～ 2030 年度 ③－②
電力削減量 (kWh)	0	100	150	50
電力排出係数 ( $\text{kg-CO}_2/\text{kWh}$ )	0.531	0.468	0.250	—
温室効果ガス削減量 ( $\text{kg-CO}_2$ )	0	46.8	37.5	-9.3